

# シチズン時計マニュファクチャリング株式会社における QC検定の導入・活用のご紹介

シチズン時計マニュファクチャリング株式会社  
時計学校 校長 金子孝司

## 1. 企業紹介

シチズン時計マニュファクチャリング株式会社は、2013年10月に、それまで半世紀以上にわたりシチズンの時計事業の発展の歴史を刻んできたシチズン時計事業の国内製造主要5社（シチズン平和時計・シチズン東北・シチズンマイクロ・シチズン時計ミヨタ・シチズン時計河口湖）とシチズン時計本体の製造関連部門とを経営統合し、新しい時計製造会社としてスタートしました。

国内、海外の各工場には役割があり、腕時計の部品を造る、部品を組み立てる、ムーブメント（腕時計の駆動部分）を組み立てる、完成時計として組み立てるなどがあります。それぞれに長年の時計事業で培った技能・技術があり、それを継承していかなければなりません。ソーラー発電や電波時刻修正などの新しい技術の開発、導入にとともに、より高いレベルでの品質管理が求められています。

当社は『世界一優良なる時計製造工場の実現！』をスローガンとして、又『社員と共に夢を実現する真のいい会社』を経営理念として、全社員が『品質第一主義』を貫き、時計製造のプロ集団となって生き生き働く社風の醸成に努めて参ります。

### 【 社長メッセージ — 代表取締役社長 荻原秀雄 】

当社は2013年10月にグループ再編成により誕生した新会社で、子会社合わせて国内3,000人規模の時計製造会社です。既に新会社統合前から各社でQC検定の資格取得に果敢に挑戦をしており、800名余りの有資格者がいましたが、製造業の基礎的条件整備の一環として『3,000人の社員全員がこの資格を取得しよう！』という全社的目標を掲げ、2014年度は新たに全社員のおよそ1/3にあたる1,080名のチャレンジャーが1級～3級に挑みました\*。

『上級職は2級を受けよう！』との私の指示により、多くの上級職メンバーが2級にトライしました。私も自ら言い出した以上、立場もありますので、2級を受けることにしました。しかし、その2級のレベルですが、よく下調べもせず甘く考えていたのが大間違いでした。しっかり勉強しなければ今までの経験や勘だけではとても通用しないことに、勉強をしていく段階で痛感させられました。かなり焦りましたが、「もし駄目だったら次の試験だ」と背水の陣状態で試験に臨んだところですが、運良く合格できほっと胸を撫で下ろしたところです。

当社では、今回\*までの累計で3級以上の有資格者は、契約社員を含む全社員の40%を超えるまでに引き上げることが出来ましたが、2～3年の内に夢の“全社員取得”を必ず実現させたいと考えています。多くの社員が、可否は二の次としてQC検定に挑戦すると云うこの姿勢こそが、企業には最も重要なのではとも考えており、この風土を大切にしたいと考えています。そして、このことを企業の価値向上に繋げると同時に、実際の製品品質向上に直結させたいと考えます。また、QC検定に於ける品質管理の教えは、統計的品質管理を中心に科学的なものの見方・考え方や事実に基づく管理が基本となっており、仕事の質即ち『業質向上』や『人質向上』にも大い

に役立ち、結果、業績向上に必ず帰結するものと確信しております。

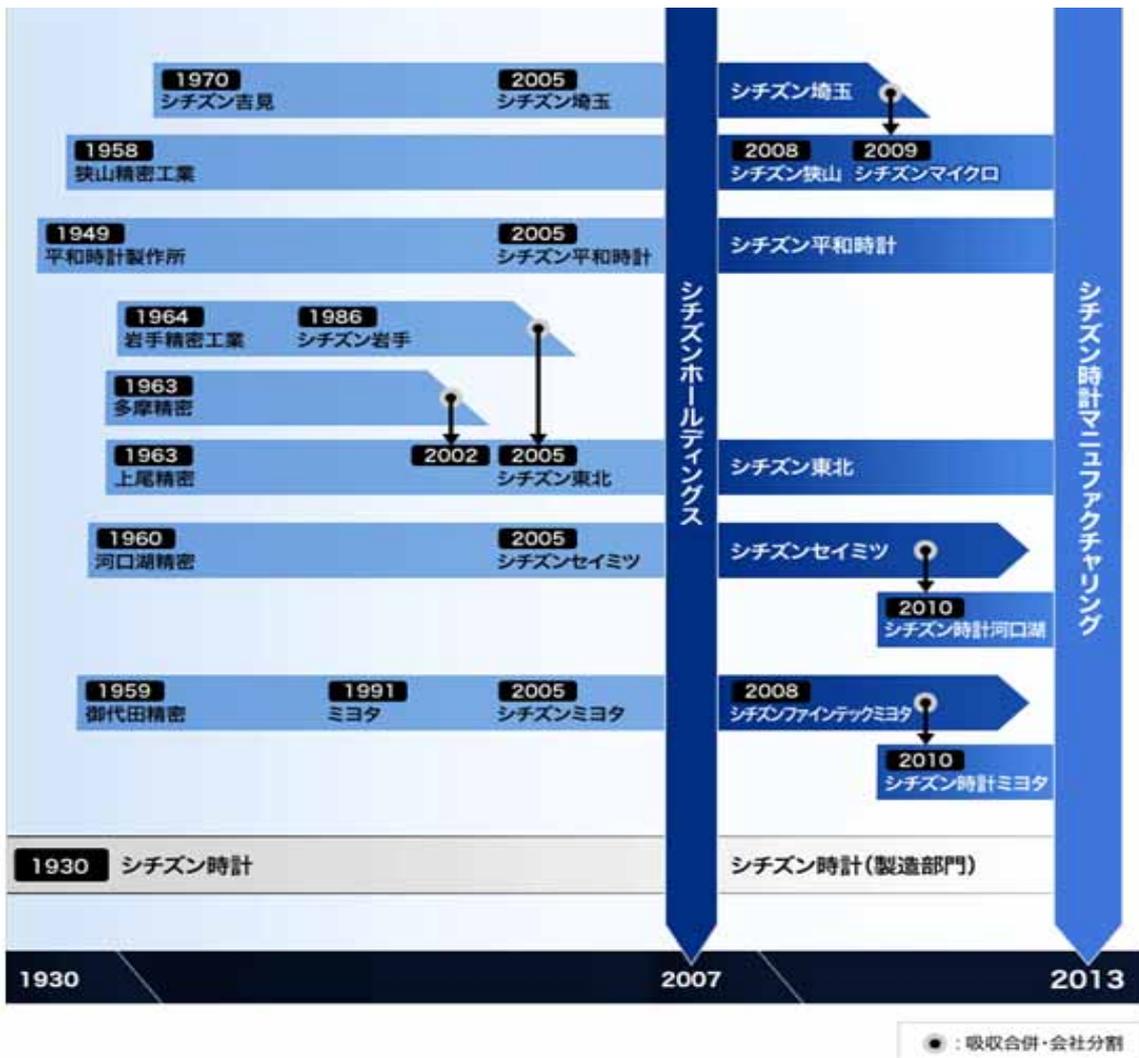
※ QC検定事務局注：第17回QC検定（2014年3月23日実施）

## 【会社概要】

- 創立 : 2013年（平成25年）7月1日
- 本社所在地 : 〒359-8511  
埼玉県所沢市大字下富840番地
- 代表者 : 代表取締役社長 荻原秀雄
- 従業員数 : 2,090人（2014.3.31現在）
- 事業内容 : 各種時計類及びその部分品の製造
- 資本金 : 3億円
- グループ会社 : 国内7社 1,000人
- URL : <http://cwmj.citizen.co.jp/>



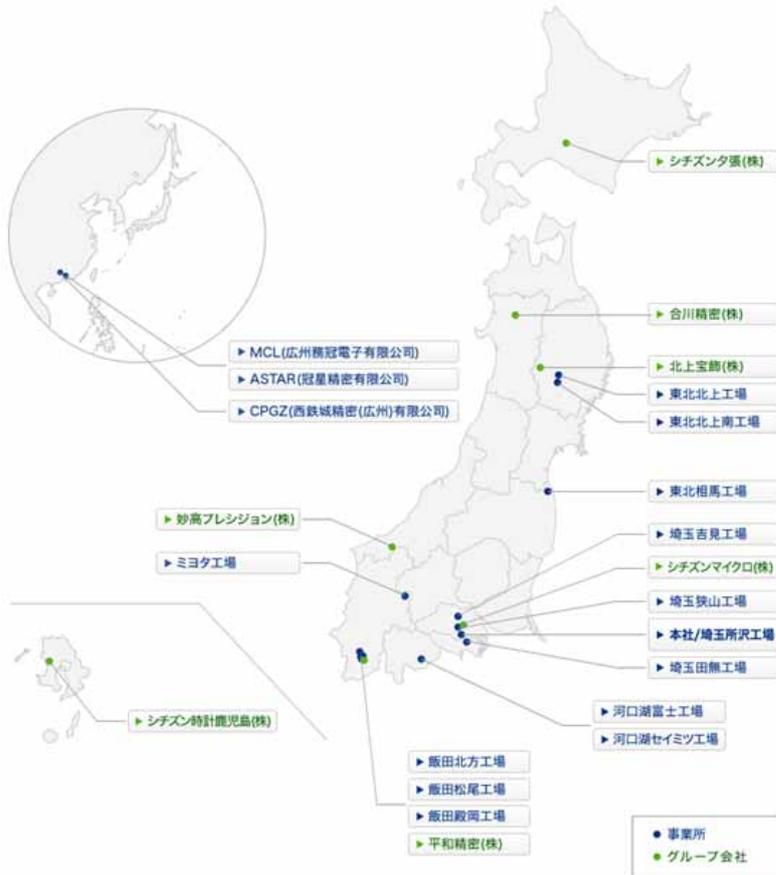
所沢・本社



## 【 工場／グループ会社 】

シチズン時計マニュファクチャリング（株）の製造体制は、国内5工場（小分類で13工場）、国内グループ会社は7会社があります。

また、海外には中国に3拠点があり、やはり時計製造に関わっています。



埼玉・狭山工場



東北・北上工場



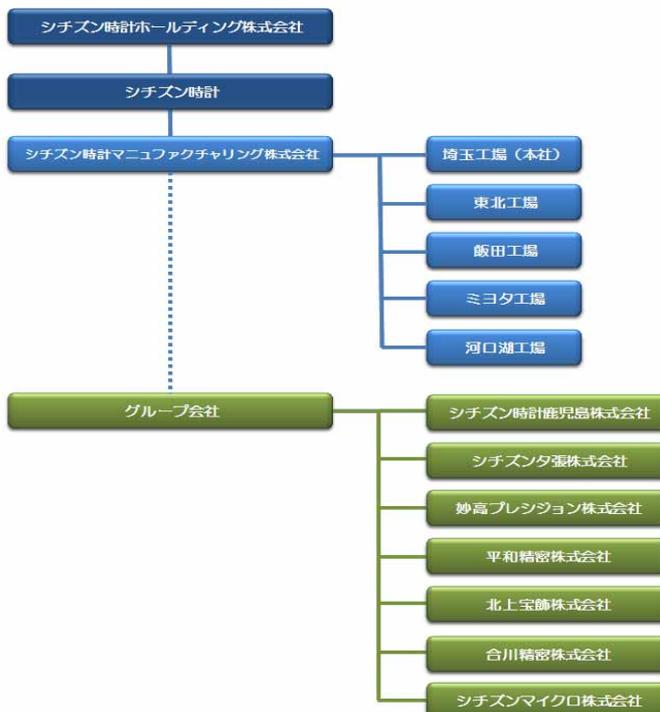
飯田・殿岡工場



ミヨタ工場



河口湖・富士工場



## 【 主な製品紹介 】



## 2. QC検定導入の経緯

シチズングループは「ビジネスライセンス制度」を導入して、従業員には自己啓発を奨励すると同時に、技能検定を始めとする業務に関わる各種資格取得を推進しており、取得者には表彰と奨励金を支給しています。時計製造関連のシチズングループ各社もこの制度の下、資格取得の活動が行われてきました。品質管理検定(QC検定)については、最初は個人で取得する人が現われ、次第にまわりの職場の人に広がって各地の会社で取得者が増えてきました。

2013年10月に時計製造関連各社が統合しシチズン時計マニュファクチャリング(株)になったのをきっかけに、会社スローガン『世界一優良なる時計製造会社の実現!』を掲げ、新たにQC/D向上活動と人材教育の活動がスタートしました。全社一体活動のひとつとして、QC検定全員取得を掲げ、社長自らが受検にエントリー、率先垂範を示して、全社員のQC検定取得を目指す活動が始まったのです。

## 3. 合格に向けた社内教育の推進

部門長・品質担当・技術担当者は2級以上の取得、一般社員は全員が3級以上の取得を目指しています。合格に向けた教育は、社内教育部門の時計学校が主導して各工場や職場単位で計画を作成し、先輩取得者が講師となって対策講座を開催しています。やり方は工場によって違いますが、例えば毎週1回就業後に1時間半の講習を行ったり、土・日の休日を使っての講習を行う場合もあります。また、過去問題を活用した社内模擬試験も実施しています。

「合格者は次の受検者に教えること」という時計学校方針の下、教育連鎖がつながっていくように働きかけを行っています。

## 【 QC検定対策講座の様子 】



夕張



所沢



鹿児島



田無

#### 4. QC検定取得者実績と目標

グループ全体の人員約3,000名に対して、2013年度までのQC検定3級以上取得者は893名でした。全員取得活動スタート前の取得率は約30%といったところです。

2014年3月の試験は、全員取得活動の一回目のチャレンジとなりました。

受検者が100名以上になる工場では、団体受検Bタイプを申し込んで自分たちの工場を受検することが出来ました。一般受検会場へ行くよりも交通費や移動の負担がなく、試験にも集中できるので大変便利です。

##### 団体受検Bタイプを行った工場／グループ会社

- ・ 所沢本社（埼玉県所沢市）      埼玉工場（埼玉県狭山市）
- ・ 東北工場（岩手県北上市）      ミヨタ工場（長野県御代田町）
- ・ 飯田工場（長野県飯田市）
- ・ 河口湖工場（山梨県河口湖町） ※シチズンセイミツ(株)と共同開催
- ・ シチズンタ張（北海道夕張市）      シチズン時計鹿児島（鹿児島県日置市）

その結果は、1,004名が受検し1,2,3級合わせて477名が合格、3級以上の取得者は1,236名になりました。現時点での3級以上取得者は41%です。中期計画で取得者100%を目指していきます。

##### 【 取得者数推移 】

	1級	2級	3級	合計	合計取得率
2010年度末	0	37	149	186	6%
2011年度末	0	56	291	347	12%
2012年度末	2	75	528	605	20%
2013年度末	4	107	641	752	25%
2014年度上	5	189	1,036	1,230	41%



## 5. QC検定合格者の声

### 『3級合格者』 埼玉工場 男性社員

私が品質管理検定を受検した動機は、現状の自分の品質管理知識に自信がなかったからです。私の業務は腕時計のバンドピンを切断する工程ですが、一本一本、長さにばらつきが出ます。今まではその傾向が分からなかったので、経験からの勘で寸法の微調整を行っていましたが、品質管理の勉強をして、実際にデータをまとめ、グラフ化することにより傾向が目で見えて分かるようになりました。また、長さの狙い値が数値として明確になったので、品質の向上につながりました。

今回品質管理検定の3級を受検し、無事に合格することができました。この検定で学んだことを今後の業務に活かし、更なる品質の向上に努めていきたいと思えます。

### 『2級合格者』 東北工場 女性社員

2012年度に3級を受検した後、1年の期間をおいて2級に挑戦しました。

3級の時と勉強量は同じで大丈夫だろうと思いながら、いざテキストを開いてみると・・・レベルがとて違う！手法分野のグラフの見方や計算方法など、自分一人では分からなかったので部門の講習会に参加し、納得できるまで質問して教えていただきました。講習会の直後は、解き方を忘れないうちに問題集や過去問を解く習慣を付けました。休日や隙間時間を作り、問題を繰り返し解くことで自分がどの部分で間違ってしまうのかが分かり、その点を重点的に勉強して試験に臨んだところ、無事合格することができました。今後は部門の改善活動に新QC七つ道具の手法を取り入れていきたいです。

### 『3級合格者』 東北工場 男性社員

— 実力をはかるために受検 — 私がQC検定を受検したのは、社員教育の中で品質管理について学ぶ機会があり、どれだけ理解しているのかを試すためでした。社内での勉強会では、再度品質管理について復習できたことに加え、新たな知識を習得できた点が良かったと思えます。これまでの改善活動では、何となくQC七つ道具を使っていたが、資格を取得することによって、「様々な手法を適正に使う技術が身についている」ということを客観的に証明できることから、自信にもつながりました。今後は、自己のスキルアップのために2級合格を目指して頑張りたいと思えます。

### 『2級合格者』 飯田工場 男性社員

腕時計の基板実装を行う部署で生産技術に携わっています。数年前に3級を取得しましたが、近頃業務の中でその知識を要求される場面が増えたと感じると同時に、まだまだ活用しきれていないとも感じていました。そこで、3級範囲の復習も兼ねて更なるスキルアップを目指し2級受検を決意しました。初挑戦の第16回は力及ばず不合格でしたが、今回2度目の受検にて合格することができました。基本統計量から始まり、サンプリングや確率分布、管理図等、様々なツールを学べましたが、実際に使えなければ価値がありません。まずは自分で使いこなせるよう更に習熟度を上げ、その後生産現場に合わせた応用方法を考え展開していくのが私の役目だと思っています。

### 『3級合格者』 飯田工場 女性社員

私が今回QC検定を受検する事になったのは、会社方針として3級取得が従業員の必須資格になった事もあり受検する事になりました。やるからには年齢を言い訳にはいけないと心に誓い試験勉

強を始めました。苦手な計算問題は何度か繰り返し覚えたつもりが、次の日に過去問題をやってみると解らなくなる事もしばしばあり、記憶力の低下に何度も心が折れそうになりました。それでも家族の協力と周りの人の励ましが私に力を与えてくれたように思います。今回のチャレンジで得た知識をQC活動に活かし「やればできる」という前向きな気持ちで仕事に取り組みたいと思います。

### 『3級合格者』 ミヨタ工場 女性社員

— 品質管理検定3級を受検して — この度、私はQC検定3級を受検し無事に合格することができました。仕事をしながらの受検勉強はなかなか両立することができませんでしたが、社内で行われたQC勉強会に参加し受検に向けての意識を高めました。勉強をする中で、品質管理は“ものづくり”の基本的なものであることが分かり、より一層関心を持ち勉強に励むことができました。今回、私はQC検定3級を取得することができましたが、実際は仕事場で活用しなければ意味がありません。QC検定で得た知識を仕事に活かし、さらに自分自身のスキルアップにも繋げて行きたいです。

### 『3級合格者』 河口湖工場 女性社員

— 会社も私もみんなでスキルアップ!! — 私は普段品質保証の仕事をしています。入社して3年目になり改めて基本を学ぶ機会として、また品質管理検定3級全員取得という会社の取り組みとして、今回チャレンジさせていただきました。会社の取り組みということもあり、勉強会が開かれていたので、参加し理解を深めていきました。勉強を進めていくと、目的によって適切なグラフがあることなど、仕事で活用できることばかりでした。合格発表があるまで不安はありましたが合格できてよかったです。3級で学んだ知識を活かして、今後は自分の品質保証に対して自信が持てるように、そして2級取得も目標として頑張っていきたいです。

### 『2級合格者』 河口湖工場 男性社員

私は前回、QC検定3級に合格しました。今回は3級で習得した知識の確認や、更なる自分自身のレベルアップのために2級に挑戦しようと思って受検しました。本格的に勉強を始めたのは一カ月前くらいからで、平日の仕事終わりや、休日の空いた時間などを使って勉強していました。特に苦戦したのは確率分布や統計的推論などの品質管理の手法の分野で、とにかく問題集や過去問を繰り返し解き、解き方を覚えました。また、会社が過去問や参考書の配布、週一回の勉強会を開いてくれるなどのサポートをしてくれたおかげで何とか2級に合格することができました。

今後は今回習得した内容を自分の業務に少しでも生かしていけたらと思います。

## 6. QC検定に期待すること

検定試験というとにかく合格することが目標になってしまい、過去問の勉強や受検テクニックに走りがちで合格するとそれで満足してしまいます。それでは意味がありません。

QC検定では毎回新しい問題が出されていますので、品質管理について幅広く、また、本質を捉えるような勉強が必要になります。

私どもの会社が率先して取得推進している理由はそこにあります。私たちのような製造業では、毎日毎日が品質との戦いです。

QC検定の合格を目指して勉強する中で知らず知らずのうちに品質管理の知識や技能が身につき、社員の意識が変わっていく、そのような検定試験であり続けて欲しいと期待しています。

## 7. 学生に期待すること

シチズン時計マニュファクチャリング(株)のように「ものづくり」を主体とした会社にとって、「製品の品質」を管理しお客様に満足して頂ける製品を供給し続けることは重要な使命です。新製品を次々に開発し、短期間に立ち上げ、様々なニーズに対応するために多品種の製品を毎日製造しているからです。このことは製造業に限らず、「仕事の質」を管理し向上させるという意味では、すべての業種にあてはまり、多くの企業が品質活動を重要視しています。

しかし、学校を卒業して入社される皆さんのなかに品質のことを勉強されてくる方は非常に少ないのが実態です。学校のカリキュラムであまり取り入れていないのも一つの要因かと思いますが、そのために品質に関しては入社されてから企業が教育しなければならないのです。

実践的なことは実際の仕事についてから日々の体験を通して学んでいくのですが、品質管理の基本的な用語や考え方を事前に知っておくと、仕事に就いた時に役に立つことは間違いありません。

QC検定の資格取得に取り組むことは品質管理の基本を学ぶことです。就職前に是非チャレンジされることをお勧めします。

以 上